

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

前号に引き続き、東日本大震災から丸8年となる3.11に、岩手県大船渡市では、大船渡教会で追悼復興祈念ミサが行われました。また、震災直後から大船渡ベースを支えてくださったボランティアやスタッフの方々がベースを訪れて、勇気づけてくださいました。宮城県亘理町では、津波被災者の追悼と地域の復興を願って、亘理教会でミサがささげられました。その様子をご紹介します。

福島では、津波だけでなく、福島第一原発事故による被災も甚大で、未だに多くの人々が苦しんでおられます。「第6回 いのちの光3・15 フクシマ」として、3月15日に福島県南相馬市のカトリック原町教会で行われた祈りと翌16日に仙台市のカトリック元寺小路教会で行われた講演会の様子をお知らせいたします。

最後に、震災時、津波から逃れるため多くの人々が必死で駆け上がった宮城県石巻市の日和山公園に、石巻ベースの利用者とスタッフがお花見に出かけた記事をご紹介します。市内を一望できる日和山公園は、約400本の桜が咲き誇る桜名所であると同時に、石巻市に住む被災者の方々にとっては、いのちと悲しみの思いで満ちている公園でもあります。

大船渡の3.11 ～出会い・再会の喜びに勇気づけられ～

カリタス大船渡ベース 大河内 愛

2019年3月11日は大荒れの悪天候にもかかわらず、ベーススタッフだった方、初期の頃によくボランティアにいらしていた方、毎年1度は大船渡を訪れてくださる方など、懐かしい方々が訪れました。また、今年は大阪大司教区の酒井俊弘補佐司教様がいらっしゃいました。



大船渡教会でミサをささげられた酒井司教様

酒井司教様は、10日夕方に大船渡に到着され、その日の夜は大船渡教会の信徒との交流会に参加されました。翌11日の午前中に、震災当日の映像を視聴し、大船渡市内をベース長が案内しました。

午後1時30分から大船渡教会で東日本大震災追悼復興祈念ミサが行われました。酒井司教様のお話の中で、「8年という月日は、もう8年なのか、まだ8年なのか。恐らく多くの方はたった8年ということかもしれない。阪神淡路大震災から24年経って、ようやく話せるようになったと言う人もいます。24年経ってもたくさんの年数ではない。東日本大震災の日以来、会えなくなった方が18,000人いるそうです。その18,000人の方を毎日1人取り上げて特集を組むとすると50年かかります。お一人お一人に特集を組むに値する人生があった…」とお話してくださいました。



いつまでも悲しんでいてはいけない、と思う方がおられるかもしれませんが、司教様のお話を聞いて、悲しみは自分で止めるものではなく、いつしか心に晴れ間が訪れることなのかもしれないと思いました。悲しみの中におられる方々の心に1日も早く晴れ間が訪れますように。

震災直後に酒井司教様が詠まれた句をご紹介します。

虎落笛さえも絶えた津波後

虎落笛（もがりぶえ）は冬の季語で、竹垣や電線に強い北風が吹いて、冬のような音を出すことを言うそうです。津波で何もかも流され、虎落笛さえ聞こえないのだろうなあと感じたことを詠んだそうです。今日のような日に虎落笛が聞こえるとしたら、それは復興を表しているのかもしれない、ともお話しくださいました。

司教様の穏やかで静かな語り口調が優しく心に染みましたが、この日を心落ち着かずに迎える方は少なくありません。さまざまな思いでこの日をお過ごしの方々に思いをはせました。



2012年～2014年によく来てくださった方々と当時の話が尽きませんでした。元ベーススタッフのシスターは、ベースに新たな息吹を感じ、今後の活動に期待してくださり、現場で活動する者にとって、大きな励みとなりました。

地域の方々にとっても、ボランティアやスタッフにとっても、これまで多くの出会いがあり、かけがえのない交流が育まれました。たとえ物理的に離れていても、互いにいつも近くに感じ、互いの生きる力となって勇気づけられていると、あふれる笑顔を見て感じ入りました。

遠く離れていても、東北に心を向けてくださる方々がおられること、祈りを通して、心をあわせることを強く感じる日となりました。

8回目の東日本大震災追悼・復興祈願ミサに思う

カトリック亘理教会 長嶋 治夫
八木山オリーブの会 野田 和雄

3月11日午後1時より、カトリック亘理教会にて東日本大震災追悼・復興祈願ミサを行った。その日はあいにくの雨と強風の中、例年参加いただいているカトリック東京ボランティアセンター（CTVC）とゴスペルメンバー、八木山教会のオリーブの会のメンバーも加わり、40人ほどが集まった。

フィラデルフィ・パヴォル（以下、パウロ）神父の司式のもと、震災で亡くなった人々、特に津波に巻き込まれた亘理教会の信徒の娘さんに思いをはせて祈った。また、亘理教会およびオリーブの会を支援してくださった田園調布教会の今泉さん、オリーブの会の企画まとめ役でもあった八木山教会の片岡さん、オリーブの会の被災者星さん・木村さんが昨年、天に召された。その方々のために祈りが捧げられ、在りし日の笑顔や働く姿が思い出され、懐かしさと感謝の気持ちが胸に広がってきた。



亘理教会での追悼ミサに参加された方々

今回、初めてオリーブの会の被災者の方々にも「3月11日午後1時からのミサと、津波がきた2時46分に合わせ亘理町荒浜にある慰霊碑で祈りが捧げられる」との案内をした。それに応え、当日の朝、皆さんで食べてと差し入れを届けてくれた人が現れた。その手料理と他教会からのケーキやチョコレート菓子、そして亘理教会が支援している被災者家族森さんと仙台ダルクで育てた真っ赤ないちごがミサ後、早めのおやつとして出され、みんな大満足。



今日は雨なので、慰霊碑に行かないで亘理教会でお祈りするのはどうかとの提案も出たが、雨でもやはり慰霊碑で祈る方が良かった。ミサそしておやつの間に神さまの計らいが、雨が止んだ。

急いで慰霊碑に向かった。慰霊碑には2時46分に合わせて人が集まってきた。その中に、オリーブの会の被災者側のリーダーを担っている青田さんがいた。「待っていたよ」と声を掛けてくれた。びっくりしたのと同時にうれしさがこみ上げてきた。



被災者リーダー青田さん（右）

皆で黙祷の後、パウロ神父の被災者への祈り、聖書朗読、ロザリオを唱え、ゴスペルの歌が響く。「外国の人まで祈りにきている」と話している声も聞こえた。慰霊碑を後にして、亘理教会信徒の流された家

屋の跡地、そして、娘さんが亡くなった所まで行きお祈りをした。その時、空を見上げたら青空が広がり光が差し込んできた。



慰霊碑の前で祈りや歌を捧げた参加者たち

「第6回いのちの光3・15 フクシマ」を終えて

「いのちの光3・15 フクシマ」実行委員 勝冶 美喜子

桜満開から葉桜へと世間の話題が足早に素通りしていくのを耳にして、改めて時間経過の早さに驚かされています。

おかげさまで3月15日（金）、16日（土）には、第6回「いのちの光3・15 フクシマ」の集いを無事終えることができました。今年もまた、仙台教区の後援、カトリック仙台正平協の協賛をいただき、大変心強い思いでした。ミサは、平賀徹夫司教の主司式のもと、7名の司祭たちと90名ほどの参加者がありました。

3月15日 カトリック原町教会でのミサによる祈りと現地の声



光延一郎神父の説教は、原発事故後の国・東電の不誠実な対応を厳しく指摘し、廃炉に関わる諸問題（トリチウム汚染水の海洋放出案・放射能汚染土を高速道路に使用する案）など、環境汚染を無視した軽率な提案に対しても言及していました。

また、現地報告は小高山同慶寺の田中徳雲住職の報告でした。同慶寺は、福島第一原発から20km圏内の南相馬市小高区にあり、現在もご家族はいわき市に避難中とのことです。住職はいわき市から各地に散らばって住む檀家の方々と訪問したり、時には小高のお寺で、檀家の方々と交流したりしながら多忙な日々を送っているということでした。

16日の元寺小路教会における北川恵以子医師（小児科・精神科）の講演は、この8年間私たちが最も気にかけていた子どもを中心とした精神および身体被害についてのお話でした。

北川先生は、震災後月1度、札幌からボランティアとして通い、被災地の子どもたちの診療を行ってきました。ここ数年間は、南相馬市の診療所で、主に子どもたちの精神面での診療に当たってきました。福島県立医大が「小児甲状腺がん」は原発事故が要因とは考えにくいと発表したことについても、実際の数字は否定できないと話されました。また、ばらばらになった家族生活は、経済負担の厳しさ、家族のつながりの崩壊を招いていることなどを丁寧に紹介していました。

3 月 16 日 講演会の様子



廃炉まで数十年かかることを考えると、子どもたちの健康被害について、いったい誰が責任を取るのかと怒りがわき起こってきます。

何よりも目の前の子どもたちに必要なことは（大人でもあるが）、一週間でも二週間でも現地を離れて過ごす「保養」がこれから当分の間、必要なことと話されました。肝に銘じていかなければならないと改めて心に刻んだところです。

「いのちの光 3・15 フクシマ」実行委員会は、福島第一原発事故をきっかけにできたものです。チェルノブイリ原発事故がちょうど 33 年前の 4 月 26 日に起こったこと、そしてそこは今でも人が住むことを許されない町であり、二世帯、三世帯の子どもたちが放射能による健康被害に苦しみながら過ごしていることを耳にすると、**「いのちの光」**のなすべきことは、まだたくさんあることに気づきます。

爆発した原発の燃料デブリは、9 年目にしてやっと取り出せる目処がついたばかりです。世界の人々の目は、そんなに甘くありません。日本が、私たちが原発に対してどれだけ厳しい目を向けて対応していくかが問われています。

第 6 回 いのちの光 3.15 フクシマ

福島原発事故の健康への影響

仙台教区サポートセンター 長谷川 昌子

3 月 16 日（土）仙台教区カトリック元寺小路教会において、午後 2 時から 4 時まで、「福島原発事故の健康への影響」と題して、小児科医であり精神科医である北川恵以子先生の講演会が開催されました。

この講演会は、「いのちの光 3・15 フクシマ」の活動の一環として行われたものです。

まず、仙台教区の佐々木博神父の「原発被災者は精神的に影響を受けていると思われます。私たちは苦しむ人々にどう寄り添っていけばいいのかの、ヒントを伺えればと、先生のお話に期待しております」と挨拶。

続いて、この企画の事務局長・勝谷美喜子さんから、北川先生のご紹介がありました。2011 年 4 月に釜石、いわきに入ってボランティア活動をしたのをきっかけに、2012 年からは、相馬市や南相馬市で、小児科医・精神科医としてボランティア活動を月 1 回始め、それを現在も続けておられます。

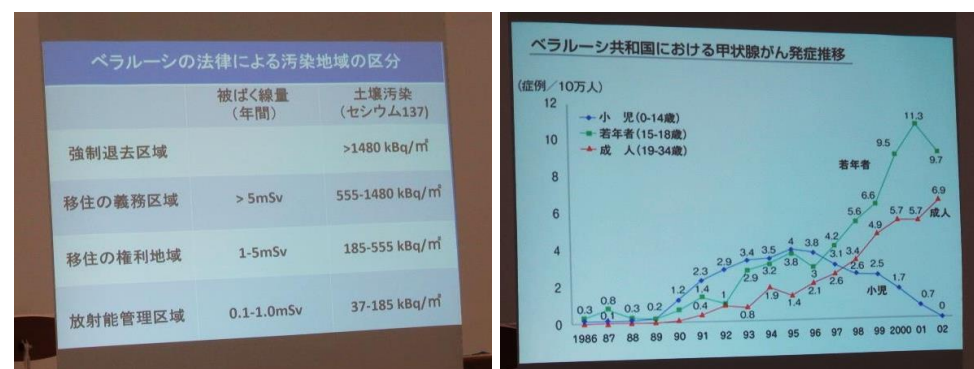
北川先生は、月 1 回のボランティア活動を、札幌のご自宅から福島に通い、福島原発事故の、特に子どもたちへの影響について、ご自分が知り得た範囲でお話してくださいました。

放射能の影響ということで、よく言われ、知られていることは、高線量被ばくが健康に悪影響を及ぼし、死に至るということです。しかし、低線量被ばくについては、どの程度健康に影響があるのかは、研究者によって、発表されることは、いろいろです。

福島原発事故まで、国際放射線防護委員会 (ICRP) は、一般の人々は年間 1mSv（ミリシーベルト）までならよいと言い、日本もそのように言っていました。しかし、福島原発事故後、この安全基準を日本政府は、年間 20mSv 引き上げてしまいました。この日本の決定は、国際的な批判を受けています。

福島原発問題は、チェルノブイリ原発事故とよく比較して語られます。このチェルノブイリは、ウクライナの北部にあり、ベラルーシの国境から 16 km という場所に位置しています。原発事故時、風が南から北へ吹いていた関係で、全排出量の 70 パーセントの放射能がベラルーシに降りました。被害を最も受けたベラルーシの法律では、年間 5mSv 以上の地域に住んでいる人々には、移住が義務づけられています。

しかし、日本では、20mSv なら避難解除されます。双葉、大熊、富岡では、避難から解除へと動きます。なぜ、ベラルーシでは汚染地域の区分がされる地域に、福島住民たちは帰ってよいといわれるのでしょうか。それは、東電が補償金を払わなくてよいようになるからです。



福島では、すでに健康被害が子どもたちに出ています。原発事故以来、定期的に 18 歳以下の人を対象に、「県民健康調査」が行われています。昨年 9 月 5 日に発表された結果によると、福島県の小児甲状腺がんや、その疑いがある人は、調査が始まって以来、202 人になりました。これは、一般の検査で見られる、250 倍になります。

しかし、県民健康調査を行っている医師たちは、原発事故が原因ではないと言っています。それは、チェルノブイリでは、5 年後に小児の甲状腺がんが出始めたので、事故後 5 年までの患者は、原発事故と関係ないと言うのです。

その上、このように患者が増え続けているのに、この検診を止めようと言っているのもおかしいことだと思います。

肉体的なこのような苦しみ、他、精神的な苦しみがあります。それは、親である父と母が、我が子を県外で育てるかどうかを巡って対立している家庭もあり、そのことで苦しんでいる母親も多いのです。また、実際に夫と別居して県外に避難し、二重生活を続けることで、経済的に困っている家庭の苦しみもあります。

こんな中で、私たちはどうすればいいのでしょうか。どんなことができるのでしょうか。

1. 関心を持ち続けること。
2. 保養への支援。
3. 海外の人へ訴える。

たとえば、国連人権理事会などへの訴えなど。

活発な質疑応答の後、講演会は終わりましたが、参加者それぞれが、福島についての自分の課題を感じて帰って行ったようでした。



講演してくださった北川恵以子先生

活発な質疑応答が行われた

石巻ベースのお花見

仙台教区サポートセンター/カリタス石巻ベース 濱山 麻子

カリタス石巻ベースでは、毎年、オープンスペースに日頃来てくださる皆さんとお花見に出かけています。これまではバスを借りたり車を連ねたりして、お隣の登米市や東松島市へ出かけていたのですが、今回は「あまり大がかりでなく、参加する人も無理をしないように」とスタッフで相談した結果、ベースの徒歩圏内にある桜の名所、日和山公園に現地集合してみようということになりました。とはいえ、お年寄りや足の悪い方、遠くにお住まいの方もいるので、ベースからの送迎も受け付けることにしました。近所という気楽さもあってか、これまで申し込んだことのない方も何人か申し込んでくださいました。

当日の朝、午後から雪になるという予報を気にしながら準備をしていると、参加予定の一人から電話があり、キャンセルの連絡だろうかと思って出ると、「今日は予定通りやるのすか？ 荷物の積み込みは手伝わなくて大丈夫？」というお言葉。積み込みはもう済んでいるので大丈夫、と伝えて電話を切りましたが、その気遣いをとてもうれしく感じました。



しだれ桜の下で笑顔で集合写真撮影

ベースからの送迎を希望された方々を、スタッフが車で往復してお送りしました。車から降りると、皆さん率先して荷物を下ろし、シートを広げて場所を作ってくださいたり、足の悪い方には「今、パイプ椅子を持ってくるからね」と声をかけてくださったりして、自然に助け合って準備が進みました。そうしているうちに自宅から直接来られる方々が、日和山の急な坂をゆっくり上ってこられ、予定通りの時間に全員がそろいました。

数日前から寒波が居座り、海に面して植えられたソメイヨシノはまだぼつりぼつりと開き始めたところでしたが、大きなしだれ桜が咲いており、集まった皆さんは「あらーきれいに咲いてたこと！」と嬉しそうに声を上げていました。さっそく桜の下で、みんな笑顔で記念撮影。そしてシートに座ってお弁当を広げました。「石巻に住んでいるけど、日和山でお花見するのは初めてよ」「ここはツツジの時期もいいんだよね」「あんまり寒くなくて、良かったね」と話が弾みます。お腹が落ち着くと、誰からともなく「歌って！」と声があがり、まずはみんなが「花」「さくらさくら」を合唱、続いて、民謡のとても上手なIさんが「港節」（石巻の風物を盛り込んだ民謡）を歌うと、ふだんはオープンスペースで静かに新聞を読んでいるSさんが「ドンパン節」を熱唱してくださいました。そのうち「よし、踊ろう！」となり、Iさんの「大漁唄い込み」に合わせて踊りの輪ができました。この踊りは、毎年、石巻の川開き祭りで踊られているものですが、なぜかみんなうる覚えで、「忘れた！」「なんだか変だ！」と苦笑い。そのうち近くでお花見をしていた別のグループにも「混ざらいん！」と声をかけて、踊りの輪が大きくなりました。

体が温まったところで、1時間半ほどの短い時間でしたがお開きとしました。ほとんどの方がそのままベースのオープンスペースに移動され、お花見の楽しい余韻が残る中、温かいお茶を飲みながら、テーブルいっぱいにおしゃべりの花を咲かせていました。以前、仮設住宅でのお茶っこで関わっていて、今回初めて参加してくださった方は、知り合いの方との偶然の再会もあり、「とっても楽しかった。また来ますね」とうれしそうに帰っていかれました。

今回のお花見は、カリタスで出会った仲間たちが、お互いを大切に思いあい、自然に支え合う温かい空気に満ちた一日でした。この心地よさを大切に、今年度も楽しく活動が続けていきたいと思います。



一緒にお昼を食べ、歌や踊りも楽しまれた参加者の皆さん

東日本大震災応援ツアー2019のお知らせ

カリタス大船渡ベース・カリタス南三陸ベースでは、東日本大震災応援ツアー2019を実施しています。ぜひこの機会に大船渡や南三陸などを訪れてみてはいかがでしょうか。詳細は各ベースへお問合せください。皆さまのご参加をお待ちしております。

がんばっぺ東北!!

東日本大震災応援ツアー 2019

カリタス大船渡ベース⇔カリタス南三陸ベース

第1回は終了しました

第1回 2019年 第2回 5月14日(火)～16日(木)
第3回 6月11日(火)～13日(木)
第4回 7月9日(火)～11日(木)
第5回 9月17日(火)～19日(木)
第6回 10月15日(火)～17日(木)

どなたでも参加できます!

2泊3日(金・土・日)

※受付締切 各回ともツアー初日の2週間前
※参加費 1名につき5,000円(2泊3日分) ※別途交通費(3泊4日分)

※本ツアーは、被災地大船渡ベースと南三陸ベースの両方に立ち寄り、大船渡ベースでの宿泊(1泊)と、南三陸ベースでの宿泊(1泊)を予定しています。※本ツアーは、大船渡ベースと南三陸ベースの両方に立ち寄り、大船渡ベースでの宿泊(1泊)と、南三陸ベースでの宿泊(1泊)を予定しています。※本ツアーは、大船渡ベースと南三陸ベースの両方に立ち寄り、大船渡ベースでの宿泊(1泊)と、南三陸ベースでの宿泊(1泊)を予定しています。

1日目	2日目	3日目
12:00 大船渡集合 13:30 大船渡ベース 14:15 昼食(大船渡) 16:30 分がけ合い・温泉入浴 19:30～20:30 『山姥先生を助けて』 宿泊 ★ カリタス大船渡ベース	8:30 大船渡集合 9:00 大船渡ベース 10:20 大船渡ベース 11:30 大船渡ベース 12:30 大船渡ベース 13:30 大船渡ベース 15:30 温泉入浴 17:30 カリタス南三陸ベース 宿泊 ★ カリタス南三陸ベース	7:00 南三陸集合 7:45 出発 8:30 南三陸ベース 9:30 南三陸ベース 12:00 昼食・買い物 14:30 南三陸ベース 16:00 南三陸ベース 16:00 南三陸ベース

※内容は都合により変更されていく場合がございます。予めご了承ください。

※お申し込みは各ベースへ
TEL・FAX: 0192-47-4737

カリタス南三陸ベース TEL: 0220-23-9231

カリタス大船渡ベース TEL・FAX: 0192-47-4737